



中学 1 年生

国語

5 月 22 日

授業で使用するもの

筆記用具・このプリント(またはノートか裏紙)・Sirius

名前

ニュースの内容を簡潔にまとめましょう。

重要だと思った部分

メモ

(重要だと思つた音分)

下書きの内容をもとに八〇字以内で要約しましょう。

[illegible]

まず覚えておきたいことわざ

学習日 月 日

ことわざとは、古くからある教訓や生活の知恵などを短いことばで言いあらわしたものです。動物や数字などでたとえているものが多いのも特徴です。

- あぶはち取らず……欲張ると結局何も得られない。
- 雨降って地固まる……もめごとの後は、前よりも物事が落ち着く。
- 石の上にも三年……しんぼうしていればいつか成功する。
- 井の中のかわず大海を知らず……自分のせまい知識や考えにとらわれ、広い世界があることを知らない。
- 牛に引かれて善光寺参り……他人にさそわれて思いがけなく良い方に導かれる。

例題①

次の意味のことわざを、右から選んで書きなさい。

- (1) しんぼうしていればいつか成功する。
- (2) 欲張ると結局何も得られない。

- うそから出たまこと……うそのつもりで言ったことが事実になってしまふ。

- 帯に短したすきに長し……物事が中途半端で役に立たない。
- かめの甲より年の功……長年の経験はおろそかにできない。
- くさつても鯛……元々すぐれたものは、たとえ落ちぶれてもその価値を失わない。
- 口は災いの門……よく気をつけて話さないと、思いがけない災難を招いてしまふ。「口は災いのもと」とも言う。
- けがの功名……失敗が、思いがけずよい結果を生む。
- 郷に入っては郷に従え……新しい土地を訪れたときは、その土地の習慣に従うとよい。

例題②

次の意味のことわざを、右から選んで書きなさい。

- (1) 長年の経験はおろそかにできない。
- (2) 失敗が思いがけず、よい結果を生む。
- (3) 物事が中途半端で役に立たない。
- (4) うそのつもりで言ったことが事実になってしまふ。

- さばを読む……自分の利益になるように、数をこまかす。
- 知らぬが仏……当人だけが知らずに、平気でいる様子。
- 住めば都……どんな場所でも、住み慣れると愛着が出て、よいところになる。
- 船頭多くして船山に上る……指図する人ばかりだと、物事がまとまらず、とんでもないことになる。
- たなからぼたもち……思いがけない幸運にめぐり合う。
- とりの芝は青い……他人のものがよく見えてうらやましく思う。
- とらぬたぬきの皮算用……まだ手に入らないものをあてにする。
- どんぐりの背比べ……飛びぬけてすぐれたものがなく、似たりよったりなこと。

例題③

次の意味のことわざを、右から選んで書きなさい。

- (1) 他人のものがよく見えてうらやましく思う。
- (2) まだ手に入らないものをあてにする。
- (3) 当人だけが知らずに、平気でいる様子。
- (4) 思いがけない幸運にめぐり合う。

- 泣きつ面にはち……悪いことで弱っている上に、さらに悪いことが重なること。「泣き面にはち」とも言う。
- 情けは人のためならず……人によいことをしておけば、いつか必ず自分のためになる。
- 七転び八起き……何度失敗してもくじけない。●七転八起
- 二階から目薬……もどかしい。思うようにならない。「天井から目薬」とも言う。
- 花より団子……名誉よりも実利を選ぶ。
- 良薬は口に苦し……自分のためになる忠告は、聞くのがつらい。
- 渡る世間に鬼はない……世の中は冷たい人ばかりではなく、助けてくれる人もいる。

例題④

次の意味のことわざを、右から選んで書きなさい。

- (1) 名誉よりも実利を選ぶ。
- (2) 悪いことで弱っている上に、さらに悪いことが重なること。
- (3) 何度失敗してもくじけない。
- (4) 思うようにならない。

練習問題

1

次の□にあてはまることばを書きなさい。さらに、ことわざの意味を後のア～クから選び、記号で書きなさい。

- | | | | |
|-----|----------|--------|-----|
| (1) | □ | を読む | 意味 |
| (2) | □ | 降って □ | 固まる |
| (3) | くさっても □ | | |
| (4) | 良薬は □ | に □ | |
| (5) | 井の中の □ | 大海を知らず | |
| (6) | 情けは □ | ならず | |
| (7) | 口は □ | の門 | |
| (8) | うそから出た □ | | |

ア もめごとの後は、前よりも物事が落ち着く
 イ 自分のためになる忠告は聞くのがつらい
 ウ そのつもりで言ったことが事実になってしまう
 エ 人によいことをしておけば、いつか必ず自分のためになる
 オ 自分の利益になるように、数をごまかす
 カ よく気をつけて話さないと、思いがけない災難を招いてしまう
 キ 自分のせまい知識や考えにとらわれ、広い世界を知らない
 ク 元々すぐれたものは、たとえ落ちぶれてもその価値を失わない

2

次の意味のことわざになるよう、□にあてはまることばを書きなさい。

- (1) 当人だけが知らずに、平気でいる様子。
 ↓ 知らぬが □
- (2) どんな場所でも、住み慣れると愛着が出てよいところに見える。
 ↓ 住めば □
- (3) 飛びぬけてすぐれたものがなく、似たりよったりなこと。
 ↓ どんぐりの □
- (4) 物事が中途半端で役に立たない。
 ↓ □ に短し □ に長し
- (5) 他人にさそわれて思いがけなくよい方に導かれる。
 ↓ □ に引かれて善光寺参り
- (6) 指図する人ばかりだと、物事がまとまらず、とんでもないことになる。
 ↓ □ 多くして船 □ に上る
- (7) 新しい土地を訪れたときは、その土地の習慣に従うとよい。
 ↓ □ に入っては □ に従え
- (8) 世の中は冷たい人ばかりではなく、助けてくれる人もいる。
 ↓ 渡る □ に □ はない

9

慣用句編 ③

入り」。意味は「本意だが、そのままきらめること」である。
 (4) 「頭をもたげる」とは「考えや気持ちがあが上がる」という意味である。ここでは計算があわないのでおかしいと思っているので意味が合わず、×。この場合「首をかしげる」のほうがふさわしい。
 (7) 「これぐらいの雨では」火が消えないと言っているのである。よって×。ふさわしいのは「焼け石に水」である。

P 34

例題 ①

- (1) あごを出す (2) 歯を食いしばる (3) 顔が立つ

例題 ②

- (1) 口車に乗せる (2) 口が軽い (3) 口を割る

- (4) 耳が痛い

P 35

例題 ③

- (1) かたの荷が下りる (2) 腹を割る

例題 ④

- (1) うでが鳴る (2) 胸を打つ (3) すねをかじる

P 36

◆練習問題◆

1

- (1) 口車・オ (2) かた・エ (3) あご・ク (4) 余る・ア
 (5) 口・カ (6) すく・イ (7) 背・腹・キ (8) 並べる・ウ

解説

(1) 「口車に乗る」で「うまい話で人にだまされる」という意味になる。

2

- (1) 耳 (2) 下がる (3) 手 (4) 軽い (5) 鳴る (6) 口
 (7) かたい (8) 火 (9) 腹 (10) あご

P 37

◆応用問題◆

- 1 (1) ○ (2) ○ (3) ○ (4) × (5) × (6) ○ (7) × (8) ○
 (9) × (10) ×

解説

(4) 十分に力を発揮した、という意味を表そうとしている。よって、「つでをふるう」がふさわしい。
 (5) 「人が話しているときに白状するな」ではおかしい。この場合「口をはさむ」がふさわしい。
 (7) 話に感動した、という意味を表現しようとしているので、「胸を打つ」のほうがふさわしい。
 (9) 「父はいつも妹の味方をする」という意味をあらわそうとしている。よって、「かたを持つ」が正解。
 (10) 「私はただ対策を考えていた」ではつじつまが合わない。この場合、「何も出来ずにただだまって見ている」という意味の「手こまねく」がふさわしい。

10

ことわざ編 ①

P 38

例題 ①

- (1) 石の上にも三年 (2) あぶはち取らず

例題 ②

- (1) かめの甲より年の功 (2) けがの功名
 (3) 帯に短したすきに長し (4) うそから出たまこと

例題 ③

- (1) となりの芝は青い (2) とらぬたぬきの皮算用
 (3) 知らぬが仏 (4) たなからばたもち

P 39

2

- (1) サ (2) ア (3) ク (4) ウ (5) オ (6) コ (7) ケ (8) イ
 (9) キ (10) シ (11) カ (12) エ

例題 ④ (1) 花より団子 (2) 泣きつ面にはち (3) 七転び八起き

(4) 二階から目薬

P 40

◇練習問題◇

1

- (1) さば・オ (2) 雨・地・ア (3) 鯛・ク (4) 口・苦し・イ
(5) かわず・キ (6) 人のため・エ (7) 災い・カ
(8) まこと・ウ

2

- (1) 仏 (2) 都 (3) 背比べ (4) 帯・たすき (5) 牛
(6) 船頭・山 (7) 郷・郷 (8) 世間・鬼

P 41

◆応用問題◆

1

- (1) ○ (2) × (3) ○ (4) × (5) × (6) ○ (7) × (8) ×
(9) ○ (10) ○

■解説■

(2) 「手伝うのはやめなさい」とある。手伝うことは相手のためにならないから止めている様子である。ことわざの意味は「人によりことをしておけば自分のためになる」という意味なので、まちがって使われていることになる。よって×。

(4) 「どんぐりの背比べ」とは、「みんな平凡で、飛びぬけてすぐれたものがない」という意味である。この文ではちょうどあった大きさの皿がないという意味で使われている。よって×。この場合、中途半端で役に立たないという意味の「帯に短したすきに長し」がふさわしい。

(5) この文では、雨に降られ、かさも忘れるという二重の不運が重なっている状態である。何度失敗してもくじけないという意味の「七転び八起き」では合わない。よって×。この場合、「不運の人にさらに苦痛や不運が重なること」という意味の「泣きつ面

にはち」や「弱り目にたたり目」が合う。

(7) 「あふはち取らず」は欲張ると結局何も得られないという意味である。「まだどうなるか分からないことをあれこれ考えている」という本文の内容と合わない。よって×。ふさわしいのは、まだ手に入らないものをあてにするという「とらぬたぬきの皮算用」。

(8) 「花より団子」は名誉よりも実利を選ぶという意味である。この場合、ケーキと桜のことがばが逆になっている。

2

〈解答例〉

- (1) ・不便な地域に引越したが、住めば都だ。
・住めば都で、今ではこの町が好きになった。
(2) ・急におこづかいをもらった。たなからばたもちだ。
・たなからばたもちで、友人からお菓子をもらった。
(3) ・石の上にも三年で、彼はすばらしい投手になった。
・石の上にも三年と言うし、もう少しがまんしよう。

11 ことわざ編 ②

P 42

例題 ①

- (1) さる・木 (2) ぬか・のれん

例題 ②

- (1) えびで鯛をつる (2) 長いものには巻かれよ

P 43

例題 ③

- (1) おぼれる者はわらをもつかむ

例題 ④

- (1) ねこに小判(ぶたに真珠)
(2) 三つ子のたましい百まで
(3) 旅のはじはかき捨て (2) 人のうわさも七十五日